

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第47号

2018年7月15日発行



① 花の色は、白か薄紫。
別名-朝顔菜。



② 花弁は薄紫、中心は黄色。
(品種によって異なります)



③ 黄色い花が咲いた後に、
実が土にもぐって成長。



④ 薄紫の花に、大きな斑点。
実(み)は若い時は空を向く。

曲ある
辰まちつツリ

題字・
高橋光好さん



⑤ 花は白や薄紫、茎は濃紫。
花は地味でも、葉の風味は独特。



⑥ 花弁は紫、中心は黄色。
茎は濃紫。



⑦ チコリ属の青い花。
別名-赤チコリ。



⑧ 紫色の大きな花。
別名-チョウセンアザミ。

野菜の花クイズ ★カラーでご覧になれます。

当協議会ホームページの<https://abiko-chisan.com/newsletter>

またはQRコードから、会報「第47号」をお読みください。

クイズの答え★ ①クウシツサトシヤカキモ②シヤカキモ③ツツリ④ハコク⑤ツツリ⑥ツツリ⑦チコリ⑧アザミ



1. 会長挨拶

会長 三宅輝夫

去る5月12日に開催された当協議会第15回定期総会におきまして、会長にご選任いただきました三宅です。前年度までの活動経過を踏まえながら、上記総会でご承認を得た「平成30年度事業計画」に即して、当協議会の活動全般をしっかりと推進して参りたいと思います。

さて、あと一年弱で『平成』の元号が変わることが予定されております。顧みますと、当協議会の発足は平成16年ですので、『平成』期のちょうど後半を様々に活動してきたわけです。この間、当協議会は様々に環境の変化を体験してまいりましたが、流れの全体としては、援農ボランティアと受入農家による「地産」を主とした発足当初の活動から、時の経過と共に、食育交流や学校給食支援など広く「地消」分野へと拡大して参りました。そして、15年間にわたる諸事業の実践の積み重ねによって、それぞれの分野での活動内容が次第に定着してきております。このような背景を基にして今後を考えますと、先ずは、これまで築いてきた各事業分野の諸活動を従前にも増して着実に改善実行していくのが肝要と思われる。その上で、これらに繋がる新たな諸活動についておおいに想いを馳せ論議を深めるのが大切と考えます。

これからの一年、会員並びに役員の皆様、市役所をはじめ多くの関係者各位と共に、当協議会の理念を常に念頭に置きながら事業の推進に力を尽くしたいと思っておりますので、どうぞご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



2. 第15回定期総会を終えて

総務部会長 齊藤徳剛

あびこ型「地産地消」推進協議会の第15回定期総会が、平成30年5月12日(土)午後1時30分よりあびこ市民プラザ・ホール(あびこショッピングプラザ3階)で開催されました。

第1部講演会は『我孫子市をもっと知ろう』と題し、我孫子市市民生活部天王台行政サービスセンター長の丸山忠勝氏に弁じていただいた。知っているようで知らないところの多い市の歴史・概要を簡潔に説明、問題点を提示していただいた。

第2部定期総会は、会員の出席29名、委任状の提出63名の状況にて会則により成立しました。続いて、会則に基づき三宅会長が、総会議長に齊藤徳剛副会長を指名し議事進行しました。議案は次の6案です。

第1号議案 平成29年度活動報告について

第2号議案 平成29年度収支決算報告について並びに会計監査報告

第3号議案 平成30年度における当協議会「会則」の改定について

1. 事務所および事務局の住所地の変更
2. 団体名称の変更(農業協同組合)

第4号議案 平成30年度活動計画案について

第5号議案 平成30年度収支予算案について

第6号議案 平成30年度新役員の選出について

審議においては、援農ボランティアの活性化策、会員増加への施策、農家会員の積極的参加・食育への取組策、部会役員の兼務解消問題、他にも予算縮小での活動への危惧について等の質疑応答がなされた後、挙手多数により全議案とも原案通り承認されました。

第3部会員懇談会では、地元農産物を使い旬菜厨房「米舞亭」の料理を中心に堪能しました。約29名の参加を得て会員相互の懇親を深めました。

3. 平成30年度 役員・実行委員等一覧

役職名	氏名	実行委員等		
会長	三宅 輝夫	『水の館』2年目 協議会発足15年 会員およびボランティアの増員推進！ 		
副会長	齊藤 徳剛			
副会長	大炊 三枝子			
副会長	松本 清			
総務担当	小澤 俊輔			
会計	小澤 俊輔	(農政課担当)	斎藤 寿義	西田 集
エコ農産物普及推進 部会長	今村 直美	井出 史郎	猪野 有里	日暮 俊一
		和田 洋	栗原 裕子	
食育交流部会長	白澤 幸雄	香取 典男	相馬 英里	八澤 静江
		サポーター委員 香取 岳彦	サポーター委員 川田 悦代	サポーター委員 南 千春
援農ボランティア 部会長	三宅 輝夫 (兼任)	石田 善久	井出 史郎	宮園 祐爾
		吉田 和子		
		(農家委員) 石原 克人	(農家委員) 大炊 三枝子	(農家委員) 鈴木 順一
学校給食支援部会長	三宅 輝夫 (代行)	植松 博	山崎 甫	中村 公一
		梅田 昭	関口 敏雄	百瀬 康
	学校給食 コーディネーター	折越 揚身	福本 定一	
広報部会長	若王子 範文	日暮 俊一	南 千春	武井 伸勝
		川田 悦代		
総務部会長	齊藤 徳剛 (兼任)	齋藤 佳與子	吉田 和子	
会計監事	鈴木 勝彦 (30年7月新任)	仲原 千津子		
事務局	小松 信彦	吉田 和子		

4. 新副会長紹介

我孫子市農政課 課長 松本清

この度、あびこ型「地産地消」推進協議会の副会長に就任いたしました松本です。4月に農政課長になり、協議会の皆様と我孫子市の地産地消活動に取り組むことになりました。前職は国保年金課で国民健康保険や後期高齢者医療の業務を主におこなっていました。今回は全く畑違いの部署になりますが、三宅会長の下、会員の皆様のお知恵をお借りしながら精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

あびこ型「地産地消」推進協議会が今年で15年を迎えるとのこと。おめでとうございます。「継続は力なり」と言う言葉がありますが、続けることは簡単なことではありません。この15年間の会員の皆さまのご苦労は大変なものだったと思います。

実は先日、他市の議員から援農ボランティアについて行政視察がありました。会長、副会長、事務局長に対応をしていただき、私も同席をさせていただきました。視察の依頼は援農ボランティアでしたが、内容はそれ以外にも環境保全型農業の普及・促進や学校給食の支援等、協議会全般におよびました。今回の視察で議員の方はあびこ型「地産地消」推進協議会の活動全般に興味を持っていただけたようで、最後にお褒めの言葉までいただきました。当推進協議会の活動が我孫子市のみならず他市にまで認められることは私事ではありますが大変嬉しいことです。何うところによりますと当推進協議会を取り巻く環境は年々厳しくなっているとのこと。今後とも会員の皆様に置かれましては我孫子の農業を推進するため、ご尽力くださいますようお願いいたします。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を、心からご祈念申し上げまして挨拶といたします。



5. 「あびこん」移転オープンから1周年を迎えて

株式会社あびベジ 大炊三枝子



平成29年6月に「水の館」内に農業拠点施設、農産物直売所あびこんが、我孫子新田から移転しグランドオープン致しました。また、これに先立ちまして4月29日からは旬菜厨房「米舞亭」がスタート致しました。そして、この平成30年6月に晴れて移転1周年記念祭を迎えることが出来ましたことは、大変喜ばしく、感慨深いものがあります。

そこで、この1年間を振り返りたいと思います。まずは、先行オープンしました「米舞亭」ですが、準備にあたり肝心要のシェフがなかなか見つからず、本当に開業できるものなのかと途方に暮れておりました。やっと探り当てたのがオープン4ヶ月前でした。オープン月の4月1日からは、とにかく休みなく出勤していただき、メニューの打ち合わせやら段取りやら、備品の調達に合羽橋まで足を運び、はたまた仕入れ業者の選定など急ピッチで進めてきました。この時は、実際にオープンしてお客様が大勢お見えになり、楽しくお食事をいただいている姿を想像しながら夢が膨らんでいました。

いよいよ、オープン！連日長蛇の列。ゴールデンウィークに焦点をあてたこともあり、現場は息をする暇さえないくらいのもてんこ舞い。慣れない仕事で段取り悪く、長時間お客様をお待たせしてしまいました。当時のメニューとしては、混乱を予想して絞り込んだものでした。閉店後には毎日の反省会で改善に次ぐ改善。そんな日々がヶ月近く続き、落ち着く間もなく今度は直売所のグランドオープンを控えて、同時進行で加工室開設の準備作業にあたりました。

その後、季節が変わるごとに随時メニューを変更して来ました。その中でダントツの人気が野菜カレーとかた焼きそばです。野菜カレーはオープン前から、何度も試作を重ね、直前まで味の調整をして来ました。8月から開始しましたかた焼きそば、試作の段階では醤油味と塩味の両方を作り、モニタリングした結果、現在の味になりました。量は話題性、インスタ映えを狙っての大盛りメニューです。



旬の野菜を楽しめる野菜カレー

加工室（惣菜部門）では、オープン当初のメニューは、定番メニューとして天ぷら、きんぴらごぼう、肉じゃが、ポテトサラダ、ひじき煮でした。その後、スタッフがいろいろと新メニューを考えてくれて、ひと夏で100近い種類の惣菜メニューを販売しましたが、売り上げは伸び悩みました。集客が思いの外少なかったことや一つ一つの単価が低いこと、人件費が大幅にかかってしまったこと等々、問題山積のまま年明けを迎えてしまいました。

そこで考えて出されたことが庁舎向けお弁当の配達でした。電話注文により確実な売り上げが見込めました。ここからが挽回作戦！のつもりでしたが、電話の受付業務、宅配業務などの人材配置に課題を残しています。



小豆のロールケーキ

加工室Ⅱ（菓子部門）では、当初は丸餅と味付け餅の餅シリーズのみ。7月に入り暑くなってからは、米舞亭シェフ監修の杏仁豆腐、小豆を煮た手作り水ようかんを加えました。8月に入り新商品に行き詰まっていたところ、意外な救世主が現れました。スイーツ男子こと総務担当のスタッフが趣味を超えた野菜スイーツ開発に次から次へと取り組んでくれたおかげで、多くのマスコミに取り上げられ売り上げが右肩上がりになりました。

例を挙げると、茄子マフィン、野菜蒸しパン、牛蒡スコーン、ブロッコリービスケット等々。野菜を使って完成度が高く、全て手作りのわりにはリーズナブルな価格にリピーターが増えて来ました。平成30年6月からは新商品、なんとキャベツのロールケーキが登場！続いて小豆のロールケーキの甘さが丁度いいと評判です。

そしていよいよ本丸である直売所部門です。皆様、ご承知の通りで、売り場面積がアンテナショップ時の約2.5倍。配架台の数も同様に増えて、そこに商品を埋めなければなりません。出荷農家を増やすために、市内5地区でそれぞれ出荷説明会を開き、出荷農家を約2倍の100軒に増やすことが出来ました。また、業者に関してはふるさと産品業者、市内福祉作業所、市内事業者と順番に出荷のお願いに回った結果、現在のような多くの商品を集めることが出来ました。



市内の農家から届く新鮮な野菜

グランドオープン時にはこんなに沢山の農産物があったのかと思うほど、所狭しと並べられたことが、驚きでした。新地での客層がどうであるか、またどれだけ集客を図れるか、イベントの在り方をどうするか。日々、手探りで状態でした。イベントをすれば売り上げが見込めるかと思いきや意外とそうでもなく、客単価が落ちていきましたが、周知することが出来たと思います。

途中からは下田市の海産物の導入。現地まで商談に行き、その後、直接業者と電話取引をし、我孫子にない海産物を仕入れました。一つ一つ目の前の仕事を遂行してきたことは、他では出来ない貴重な体験をさせていただいており、厳しさの中にもやりがいを感じております。最も良かった点は、確実に農家の売り上げは以前よりも上がってきていますし、新規就農者、新規出荷者の出荷場所としても貢献出来ていると自負できることです。

今後の課題は各部門それぞれですが、共通していることは安定的な黒字化。経営者がもっと専門的知識を身につけ、アンテナを高くし、お客様の声に耳を傾け、魅力ある直売所をつくりあげ、経営安定に繋がりたいと思っております。そして、加工品製造部門では、特色ある製品開発を行っていきたいと思っております。その足掛かりとして、地元大学である川村学園女子大学の学生たちとお弁当を共同開発しています。秋には発表できると思います。これらの取り組みを通して、この農業拠点施設として、農地の保全、若手農業者の就農、育成に寄与出来れば幸甚です。

6. 講演「我孫子市をもっと知ろう」を聞いて

我孫子市農政課 小澤俊輔

5月12日(土)第15回総会に先立ち、元農政課長として平成28年度から2年間、協議会の副会長を務め、定年退職後の4月からは再任用職員として天王台行政サービスセンター長を務める丸山忠勝主査長の講演が行われました。「我孫子市をもっと知ろう」というテーマで、我孫子市の概要から始まり、環境や産業、健康福祉等の各分野におけるこれまでの施策を中心に語られました。紙面の都合上、一部抜粋してご紹介し、詳細は「あびこ地産地消コム」で公開している資料をご覧くださいと思います。



天王台行政サービスセンター長
丸山忠勝氏

はじめに、概要として沿革や人口推移について話がありました。我孫子市は、明治22年に我孫子町、湖北村、布佐町の誕生、昭和30年に各町の合併を経て、昭和45年に全国565番目、県下22番目の市として誕生しました。市民の人口は、昭和45年市政施行時の39,932人から平成22年に134,654人まで増えましたが、以降は減り続けており、平成29年現在は131,163人となっています(各年1月1日現在)。

環境については、手賀沼の浄化・再生の歴史を中心に話がありました。手賀沼は、流域での急激な都市化の結果、昭和49年度から平成12年度まで湖沼水質汚濁ワースト1を続けてきましたが、その後の浄化の取り組みによって最大28mg/lだったCOD(科学的酸素要求量)の平均値は、平成28年度には8.6mg/lまで改善されました。しかし、国の定める環境基準の5.0mg/lを未だ大きく上回っています。また、環境負荷軽減への取り組みとして、ごみの資源化率は全国トップレベルでしたが、東日本大震災以降は、福島第一原発事故による放射性物質の拡散により、資源化率は大きく低下している状況です。

産業については、商業、工業、農業に分けて話がありました。農業に関しては、販売農家数は、昭和50年に1168軒(専業171軒、兼業997軒)ありましたが、平成27年時点では417軒(専業107軒、兼業310軒)にまで減少しています。こうした状況の対策として、市は、農業用施設の維持管理や農用地の利用集積、認定農業者の育成支援、新規就農者の確保等に取り組むとともに、平成29年度には農業拠点施設を整備しました。生産地即消費地という地理的条件を活かした地産地消を進めるため、農業拠点施設の一翼を担うあびこ型「地産地消」推進協議会の重要性を改めて強調しました。

健康福祉については、医療体制の充実について話がありました。平成12年に休日診療所を開設し、平成24年には名戸ヶ谷あびこ病院の開院で休日・夜間などの救急患者に対応できる市内病院が6つになっています。また、社会福祉協議会に登録されているボランティア団体数と登録者数は、平成22年の153団体5,185人から、平成26年には174団体5,857人となり、地域で支え合う福祉の充実が図られています。一方、合計特殊

出生率は、平成26年当時全国平均1.42に対して我孫子市が1.21、高齢化率は平成27年当時で27.4%と厳しい高齢化問題に直面しています。その他に市民活動や都市基盤、防災・防犯についても説明がありました。

最後に、平成27年に実施された市民アンケート調査の結果が紹介されました。市民が力を入れてもらいたい施策として、最も投票率が高かったのは「医療体制の整備・充実」で、2位は「子育て支援」、3位は「高齢者支援」となっています。

丸山元副会長には、非常にボリュームがある内容を、テーマを中心にコンパクトにご紹介いただきました。新しい職場でのご活躍を祈念しております。

市の主な沿革

- ・明治22年 4月 1日 町村制施行、我孫子町、湖北村、布佐町誕生
- ・明治29年12月25日 常磐線(田端-土浦)開通、我孫子駅開設
- ・昭和 5年 9月10日 我孫子ゴルフ場開場
- ・昭和30年 4月29日 我孫子町、湖北村、布佐町合併、我孫子町誕生
- ・昭和39年 7月 9日 手賀大橋開通
- ・昭和45年 7月 1日 我孫子市制施行全国で565番目、県下22番目
- ・昭和46年 4月20日 千代田線開通 天王台駅開設
- ・昭和59年 2月 1日 我孫子警察署開署 県下33番目
- ・平成 2年 5月22日 我孫子市鳥の博物館開館
- ・平成 6年11月 1日 我孫子市民プラザ開館
- ・平成12年 9月26日 我孫子市基本構想制定
- ・平成19年 6月 1日 我孫子農産物直売所オープン
- ・平成23年 3月11日 東日本大震災が発生、我孫子市でも震度5弱
- ・平成27年 7月 1日 市制45周年記念式典開催
- ・平成29年 6月 3日 水の館リニューアルオープン(農業拠点施設)

7. やさいのはなし ～野菜作りと長寿社会～

農家会員 日暮俊一



日本は少子高齢、人口減少社会に突入していますが、日本人の平均寿命は更なる長寿を維持更新し、男女ともリタイア後、様々な社会活動、趣味など、人生を新しい次元で楽しむ素晴らしい時代となりました。90歳を越えた元気な高齢者にお会いする事はめずらしい事ではなくなり、人生100年時代という言葉も耳にするようになりましたが、仮に90歳まで寿命があったとして、今70歳の人であれば20年、日にちにして約7000日の人生がまだある事になります。これを長いと感じるか短いと感じるか、人により様々ですが、前向きにとらえる人にとっては、かけがえのない価値ある7000日とも言えます。

さて、この7000日に限る訳ではありませんが、元気に最低限自分の事は自分でできる人生である事を誰しも望むからこそ、ウォーキングやスポーツ（ジムも含む）、家庭菜園などの趣味や町内会、自治会での様々な社会活動やボランティア活動、そして、食を通じた健康管理などをとおして、人それぞれの人生を楽しまれています。その中でも、家庭菜園、すなわち野菜作りについて、健康（心身の）面からその効用について少し考察してみたいと思います。尚、高齢者の中には現役同様に働く人やシルバー人材登録をする人もいますが、第一線を退いた皆さんを前提に考えてみることにします。

まず、家庭菜園は、ほとんど露地栽培なので、新鮮で食感にメリハリのある野菜が食べられます。何より、畑に蒔いたタネの芽が出たかどうか、また、植えたナスやキュウリの苗が活着したか、あるいはジャガイモが芽を伸ばしたかどうかなど、発芽からそれぞれの生長過程を気にかけて確認する為自分だけの青空の下空間に行く事は実に楽しい事であり、晴れていれば



、少なからず汗をかいて新陳代謝にもなり健康的です。そして、鍬を持ったり、スコップを使ったりの作業は肉体的には多少とも負荷となりますが、筋肉や骨密度などの老化抑制効果が期待できるうえ、ハサミやヒモ、支柱を使った手先・指先の細かい作業もけっこうあるので脳の認知機能の維持にも良い影響を与えているのではと考えています。

このように適度に身体を動かせば食事はおいしく食べられ、夜は筋肉疲労により心地よい睡眠が促されることになります。野菜作りが健康寿命の延伸に大きく関わっているとも言えます。また、心が逡巡するような悩み事がある時など、気持ちの整理をする空間として、自分だけの野外の畑は絶好の場所です。室内にこもって考え事をしているより、身体を動かしながら、生長している作物を相手にしながらの気持ちの整理はプラス思考になります。

趣味とは向き合う姿勢が違いますが、実は職業としての野菜作りでも励まされる事があります。時には、天候不順で生育が阻害されたり、思うような生長に至らなくとも、またタネを蒔けばいいじゃないか、また苗を植え直せばいいじゃないかという考え方は、とても大事なことではないかと思えます。蒔き直したり、植えかえしたりした結果、予想以上に生育がよく、たくさんの収穫があったりした時はほんとうにうれしい。最終的に外観はともかく、新鮮なとりたての野菜を料理して、食卓にのせられる事は最高のぜいたくでもあり、食事の会話ははずむというものです。

おわりに、野菜作りの基本は、何といたっても根が伸び伸びと生育環境を拡大できるよう、目に見えない土の中を根にとっていかに最適の環境にしてあげられるかにつきると言っても過言ではありません。水分や肥料分を最大限活用する為にも、すみやかな根群形成は大切であり、葉や茎、花や実は、支える根群に比例して結果としてもたらされるものであるという事をおさえておきたいものです。

8. イベント予定

月 日	内容・場所など	担当部署 他
8月22日(水)	第1回料理教室	食育交流部会
8月25日(土)、26日(日)	第11回 新あびこカップまつり	あびこカップまつり実行委員会
9月22日(土)、23日(日)	市民のチカラまつり2018	市民のチカラ実行委員会
9月30日(日)	新米フェア(あびこん)	株式会社あびベジ
10月(未定)	第2回採って食べよう	食育交流部会
10月6日(土)~11月10日(土)	第15期援農ボランティア養成講座	援農ボランティア部会
11月10日(土)、11日(日)	新そば祭り(あびこん)	株式会社あびベジ
11月17日(土)(予定)	農業まつり(あびこん)	株式会社あびベジ
12月(未定)	食育映画「いただきます」上映会	エコ農産物普及推進部会
12月(未定)	第2回料理教室	食育交流部会
12月15日(土)	会員忘年会	協議会(実行委員会)
2019年1月19日(土)	新年ちびっ子餅つき大会2019	協議会(実行委員会)
2月2日(土)、3日(日)	第43回我孫子市消費生活展	我孫子市消費生活展実行委員会

9. 編集後記

5月に広報部会に松戸の援農ボランティア「野良の会」さんが来訪し、情報交換をした中で、一度、野良の会さんの援農の様子を見学させて頂こうという話になり、6月24日(日)、松戸の農家さんのところにお手伝いに行ってきました。※

野良の会さんは、あびこ援農ボランティアの経験者が、松戸で立ち上げた援農ボランティア団体です。受け入れ農家件数が9件で、援農ボランティア登録者数は約40人。私たちの組織の半分ほどの規模ですが、野良の会さんと代表の農家さんとで、連絡を密にし、運営/問題解決にあたっているようです。小さい規模であることも手伝い、ボランティア側、農家さん側、双方の意見を聞き、バランスよく汲み入れ、活動の改善に努めているということでした。

今回、こうした横の繋がりができ、こういった展開/発展の仕方もおもしろいと思いました。タイミングによって、また、年によって、ボランティア数、受け入れ農家件数が厳しい状況になった場合には、臨時でも互いに行き来できるような応援体制が作れたら、双方の情報交換もでき、話題にもなって、活動の広がりにも貢献できるのではないかと夢を膨らませました。今後も、今回構築できた関係を継続して、互いに良いところを吸収し、成長していけたらと思います。(南)

※詳細につきましては、あびこ型地産地消協議会のホームページから、フェイスブックでもご覧いただけます。

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 三宅 輝夫

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com

ホームページ <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

